



## 地球沸騰化の時代

29日(火)の熊日新聞朝刊によると「気象庁の異常気象分析検討会は28日、会合を開き、7月後半以降の記録的な猛暑や梅雨期の大雨の特徴と原因について議論した。(中略)『今年の暑さは歴代と比較して圧倒的に高い。夏全体で見ても異常だった』との見解を示した。気象庁は今夏の日本の平均気温が1898年の統計開始以降で最高となる見込みも明らかにした。気象庁によると、7月は勢力の強い太平洋高気圧に覆われ、平均気温が平年を示す基準値(1991年~2020年の平均)を1.91度上回り、1898年の統計開始以降で最高を記録した。」と書いてありました。



国連のアントニオ・グテーレス事務総長も今夏、地球温暖化ではなく、「地球沸騰化の時代が到来した」と発言しています。気候変動への危機感を表明し、異常気象という言葉も終わりを告げ、これが「ニューノーマル」になるとも述べました。

気候変動で一番深刻な被害を受けるのは、最貧国や小さな島国に暮らす人々、そして若者・子供やこれから生まれてくる世代です。現在と過去の世代が作り出した負担をこうした人々に押し付けてしまってはいけません。持続可能な開発目標(SDGs)が提示する経済・社会・環境を統合的にとらえるアプローチと、「誰一人取り残さない」との原則を耳障りのいい言葉で終わらせてはいけません。

過去においては、オゾンホールは地球温暖化の象徴でしたが、各国の対応によって、2066年ごろまでに、破壊が確認される前の1980年の水準に回復するとの予測が国連から発表されました。一人一人の行動は、必ず地球環境を変えていきます。

## それぞれの夏休み

8月12日から13日に高松市で開催された、バドミントンの全国小学生大会に、本校の坂田剣士朗さんが参加しました。坂田さんは、全国の予選大会を勝ち抜いた3・4年生のBグループに、熊本県代表として出場したそうです。1日目の予選リーグでは1位通過し、決勝トーナメントに進出し、2日目の決勝トーナメントで惜敗したそうです。坂田さんにとっては、全国のレベルを視野に入れ、今後もそれを目標に掲げて、練習に励んでほしいと思います。



子供たちは、それぞれの夏休みを過ごしたようです。昨日の始業式では、夏休みのめあてを達成できたかどうか私から問いかけましたが、達成できたという子供もいれば、あまり達成できなかったという子供もいました。達成できた子供は、さらにレベルアップしためあてを立て、あまり達成できなかった子供は、実現可能なめあてに修正すればいいと思います。昨日の学校だよりでも書いたように、めあてを立てて先ずはやってみることが重要なのです。自分から「めあて」を決めて物事に取り組むとおのずと結果が違って来るからです。それぞれの体験をそこで終わりではなく、次に生かしてほしいと思います。